

# 【ねがいましては】

平成26年3月24日

KYOWA SCHOOL

第281号

「ひとがら」

受験生たちも全員それぞれの道がきまり、精神的にもピリピリ感から解放されたようで、のんびりとした表情が伝わってきます。

受験とはいったい何なのか。勉強とは？

それを考える暇もなく続いていた、目の前にある問題を楽しむ日々。私の中ではそんな日々でした。授業の中で幾度となく繰り返される質問。わからない問題が山積でした。各自が用意した過去問題集には巻末に解答があり、解説も載っていますので、一行ずつ解読していけるのですが、インターネット上から拾い上げる他県の過去問題には、答えさえありますが、解説はほとんどありません。結果、当日中に解くことができず、私自身の宿題になります。

翌日午前中、誰も意識しなくてよい時間帯にじっくりと腰を下ろします。これが結構出来るのです。「なんだ、この考え方だったのか。」

わりと単純な考え方だったのだと気づかされる問題が多くありました。

どうしても後からあとから質問がやってくると、こころに余裕がなくなり、焦りばかりになり解けない。この現象を再確認いたしました。つまり心に余裕がないときには、うまくいかないということです。

子どもたちにとっての勉強は、ほとんどが「あー、やらなきゃ」という受け身からくるものが多いはずです。やらなきゃ落ちる…。私にとっての勉強は、ただただ「解きたい」その一言。その瞬間が楽しんでいる瞬間。

その気持ちを持ちながら向かうのが常であったため、受験が終わっても、向かう気持ちにあまり変化がないので、歩き続けます。

入試が終わった瞬間から机に向かわなくなることが、私にはとても違和感があります。勉強の世界は宇宙空間のようなもの、広がりは無限です。

だったら今から今までどおりの向かい方で楽しみましょう。

中学校では卒業式10日くらい前から、その練習のためだけの登校のようです。それ以外にもいろいろとやることがあるのですが、ここでの日常を考えると、何とも勿体ないと思ってしまう。

休みの日といえば、ほとんど「ランチ勉強」が日課であったことを思うと、この時間がとても貴重に思えます。

「この10日間、毎日ランチだったら、すごい楽しめたんだろうね。」思わず口からこぼれてしまいます。

とは言え卒業式が終わった翌日には、いつも通り彼らはやってきました。さすがに卒業式当日はお休みが多く、クラスでの打ち上げや、ご家族との団らんなど、楽しい思い出のひとつを送っていたと思います。

昨日の式もなんのその、高校数学・英語に取り組んでいます。ここで身につけた表情のまま…。

学校のように、周りが同じことをしているときには、全く気付かずにいることが多いようです。

あの子がやっていないのだから、自分もやらない。みんなそうだから、自分もそうする。

このような感覚になっていた日常、ふと、今の自分を見つめる。自分の道はどうあるべきか…。

極々自然な感触を味わいながら歩む。それがなぜか失われている空間・・・学校。

さて、生き方は千差万別です。他を意識することなく、自らが思ったこと、感じたとおりに生きてみませんか。これはけっしてわがままだとは思いません。その判断の中には、しっかりと物事の良し悪しがあるはずです。

家族を想う気持ち、友を想う気持ち、その一つひとつがあなたの個性であり、人格です。

ひとは人と接し、ひととなる。ここへやってくる子どもたちのほとんどが、人がら最優先。自分が自分が、といった自己中心的な子は皆無です。人がらは人をひきつけます。そしてその人がらに感化されていきます。

パッチアダムスという実話の映画がありますが、その中に、ある聡明な老人が語る場面があります。パッチアダムスに四本の指を見せて、「何本に見える？」少し間をおいて「・・・4本」と、パッチが答えます。「なんだと、4本だと、頭おかしいんじゃないのか。」

これをお読みになっている方には、おかしい会話に感じると思います。そしてある日のこと、やはり4本の指を見せて「何本に見える？ 向こう側を見るようにしてごらん。」パッチは目の前の指がぼやけて8本に見えたとき、「8本」「・・・そうだ、そうなんだ、8本だよ。いいかい、いつも目の前のことに囚われてばかりいるんじゃない、先のことを見つめようとするんだ。いいかね・・・。」

パッチアダムスは、その一言に胸を打たれます。生きるってこういうことなんだ。そして懸命の勉強の結果、みごとに医師免許を取得、現在、アメリカで無料の医療活動を行っているとのこと。

さて、みなさん。高校へ行かれたら、やはりその高校の色に染まってしまうのかもしれませんが、しかし、あなた方にはあなた方だけのたった一つの生き方があります。その生き方に素直に従ってください。ここで培った「ひとがら」を引っ提げて、自分だけの歩みをなさってください。自分歩きの完成です。

その姿を見、目を細めて感動に浸っている方々がいらっしやいます。ご両親です。そして私です。ありがとう。